

宇治市役所視察概要（宇治市役所 4 階特別会議室にて、午後 3 時～ 4 時すぎ）

（視察内容）

宇治市内の救急医療等の状況についての説明及び意見交換

（概要説明）

「久保田 勇宇治市長」

- ・宇治市では、昭和 40 年代に人口が急増し、昭和 50 年代には医療砂漠と言われたほどに病院、医療施設が不足し、救急医療にも大きな課題を持っていた。
- ・宇治徳洲会病院が昭和 54 年に開設された当時は、地元医師会からの反対はあったが、今では必要不可欠な中心的な役割を果たしている。

「宇治市消防長」

- ・宇治市は、人口約 193000 人で、面積は約 67 k m²で、そのうち 3 分の 2 が山で、3 分の 1 の 23 k m²が市街地。
- ・宇治市には、救急病院が 7 病院あり、その全てが私立病院。
- ・救急患者の収容時間としては、21.6 分（H20 平均）で、全国平均が 35.1 分、京都府下が 25.6 分ということで、府下でもトップクラス。
- ・全国で救急患者のたらい回しの事例が頻発しているが、宇治市では、平成 20 年中に照会回数 9 回が 1 件、7 回が 2 件、6 回が 1 件あったが、いずれも精神疾患のケースか常習者のケースという特異なケースであり、約 94%は 1 回の照会で収容されている。

（提供資料の説明）

「宇治市消防本部」

（宇治徳洲会病院への診療科目別救急搬送人員について）

- ・平成 20 年中の宇治市全体に占める宇治徳洲会病院への搬送割合は、全体で 37.6%（2475 人/6590 人）で診療科別では、内科、外科、整形外科、消化器科、循環器科などでは 30～40%と高い率で搬送されている。
- ・特に、小児科については、72.2%と非常に高い率である。
- ・山城北医療圏の小児救急医療体制は、現在、当番病院が宇治徳洲会病院ともう一つの病院の当番で行っている。（宇治徳洲会病院の当番日は月～金）また、宇治徳洲会病院では、当番日以外も小児救急当直体制を実施している。

（医療機関別救急搬送人員について）

- ・宇治市内には救急告示病院が 7 病院あり、そのうち、宇治徳洲会病院ともう一つの病院で全体の 62.7%の救急搬送人員のシェア率を占めている。（平成 20 年）

（山城北医療圏全体での救急搬送件数について）

- ・当該医療圏には 5 つの消防本部があり、年間の搬送人員は 16414 人で、そのうち、宇治徳洲会病院への搬送人員は、3928 人で、23.9%のシェア率。

「宇治市健康福祉部健康増進室保健推進課」

(宇治市内の医療体制について)

- ・救急告示病院 7 つあり、病床数はトータルで 1718 床、うち、小児救急は宇治徳洲会病院を含む 6 病院、産科の救急については、宇治徳洲会病院を含む 3 病院で担っている。
- ・救急告示病院での救急受入れ状況は、平成 20 年度で、宇治徳洲会病院は 5938 件で全体の 60.8% を占める。

(宇治徳洲会病院の状況)

- ・山城北医療圏小児救急医療体制、京都府の周産期医療体制の周産期医療第二次病院、京都府の二次救急医療体制、病院群輪番制への参加と、宇治徳洲会病院は救急医療や周産期医療体制においてしっかりと機能している。
- ・小児科診療体制としては、宇治徳洲会病院は、小児科外来を毎日開設し、時間外の対応も実施している。
- ・現在、宇治市内に産婦人科を標榜する病院は 5 つあるが、今後の医師不足により市内の救急医療体制の継続が懸念される中、宇治徳洲会病院の果たす役割は大きい。

(質疑応答)

生駒市 「宇治市の地域医療は非常にうまくいっているが、宇治徳洲会病院が進出してきた当時から、地域の医師会との関わり合いはどうだったのか。また、何がきっかけで関係がうまくいったのか。」

宇治市 「医師会の協力なしに地域医療は運営できない。もともと本市では医師会の協力ももらっていたが、宇治徳洲会が進出してきた当時は宇治徳洲会と医師会で衝突はあった。」

生駒市 「宇治徳洲会病院ができるまでの救急の状態はどうだったか。」

宇治市 「宇治市には際立って大きな病院がなかったので、近くの伏見区の救急病院に 3 割以上依存していた。」

生駒市 「宇治市には大きな病院がたくさんあるが、当直医は何人いるのか。」

宇治市 「数は把握していないが、宇治徳洲会病院は、小児の 24 時間体制を実施しているので、昼間に比べると医師数は少ないが相当数はいるだろう。また、宇治徳洲会と市内のもうひとつの大きな病院の 2 病院で、市内の 62.7% の救急患者を収容してもらっていることから、それだけの医師が当直していると言える。」

生駒市 「宇治徳洲会病院ともうひとつの大きな病院とで、救急隊が照会する順番はどうしているのか。」

宇治市 「事故現場に近い方を選択して照会している場合がほとんど。ただ、小児救急については、ほぼ 100%、宇治徳洲会病院に照会している。」

生駒市 「C P A（心肺停止）や脳内出血の場合は、どうしても専門医がいないということで、受入れを拒否され、結果、たらい回しになるといった状態だが、宇治市ではどうか。」

宇治市 「宇治市においては、宇治徳洲会病院に搬送すれば、全て対応してもらっている状況である。」

生駒市 「宇治徳洲会病院が宇治市にできる前と後では、市の医療体制はものすごく改善されたということが言えるのか。」

宇治市 「そのことは、データが物語っている。さらに、徳洲会病院では、宇治市の救急救命士の養成の講習会なども受けてくれており、市としては非常にありがたく思っている。」

生駒市 「市内病院のうちで、宇治徳洲会病院が一番新しくできた病院なのか。」

宇治市 「宇治徳洲会病院は比較的古い方。」

生駒市 「宇治徳洲会病院が、その後にできた病院の市内進出時に反対するなどもめたことはあったか。」

宇治市 「もめたということはなかった。」

生駒市 「現在、地域の病病連携・病診連携体制の構築について市からの働きかけはしているのか。」

宇治市 「特にしていない。宇治徳洲会病院の方で積極的に取り組んでいるということは聞いている。」

生駒市 「病病連携・病診連携において、カルテ様式の統一など患者情報の共有化といったことに宇治徳洲会病院が音頭をとって進めているといったことはないか。」

宇治市 「特にない。」

生駒市 「提供資料を見ると、宇治徳洲会病院は二次急性期病院なのに、外来患者数（一次の受入れ）が多いように感じるが、患者の取り扱いなど医師会側からの申し入れなどはないのか。」

宇治市 「行政側には一切ない。また、患者を取り合いしているといったことは特になく聞いている。」

生駒市 「救急など医療に関して現在困っていることはあるか。」

宇治市 「特にない。宇治徳洲会病院には、この山城北医療圏だけではなく、奈良県消防や京都市、大阪府、滋賀県からも救急患者が来られている。また、こうした恵まれた環境のため、京都府が導入している救急医療

情報システムについては宇治市はほとんど使っていない。周産期についても、徳洲会病院の産婦人科で担ってもらっている。」

生駒市 「よく徳洲会病院が来ると大変だという噂を耳にするが宇治市ではどうだったのか。」

宇治市 「宇治市に昭和 54 年に進出してきた当時にも、あんな巨大な病院が来るととんでもないことになるという何とはなしの不安があるという議論はあったと聞いている。」

生駒市 「徳洲会が来ると、医療費が高く、その結果、市の国保が上がるという噂を聞くが、そのようなことはあったか。」

宇治市 「特に聞いている。」

生駒市 「救急患者を宇治徳洲会病院にばかり搬送することに対して、他の病院から苦情はないか。」

宇治市 「特にない。」

山下市長 「本市にも、徳洲会が来ると、何とはなしに「とんでもないことになる」という議論がある。本日、このようにお話を聞かせていただき、そんな漠然とした不安も随分解消されたのではと思う。」

「宇治市と本市を含む奈良県の救急医療体制との差にただただ驚き、うらやましく思う次第。」

「宇治市レベルになるには時間がかかると思うが、本市では、救急の照会回数が 9 回、10 回が珍しくない状況にある。しかし、それを当たり前としていては、行政を預かるものとしていけないことと思う。」

「今後、本日のお話を参考にして、市民が安心できる医療体制の構築にがんばっていきたい。」